

## Q-13 校庭の管理における留意点を教えてください。

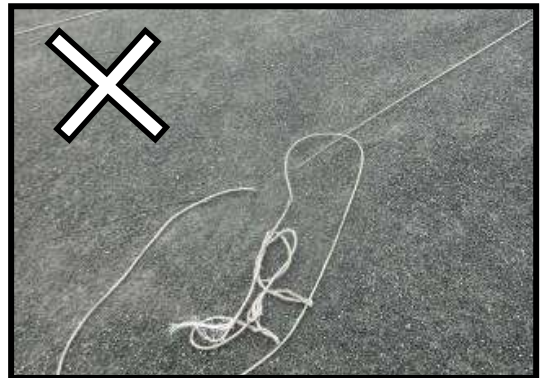
A1 流れる水のはたらきにより、放っておくと自然と校庭に凹凸ができてしまいます。委員会活動や、清掃分担などで工夫をし、日常的にブラシで整備することが望ましいです。ただ、ブラシによる整備だけでは凹凸は解消されないことも多いです。凹凸部分は職員が目視で確認し、土を集めて踏み固めるなどの地道な作業が必要です。

A2 学校開放団体が校庭を使用する場合には、管理職と相談し、現状復帰や校庭整備の依頼を丁寧に伝えていきましょう。

A3 コースロープを設置すると、運動場にラインを引く労力が軽減されます。経年劣化する物なので、切れたロープがそのままの状態にならないように気をつけましょう。

ペグを打った場合、その部分だけが盛り上がった状態になることがあります。定期的に打ち込むようにしましょう。

単元によって、コートの上やハードルの間隔などがすぐにわかるようにペグを打って利用すると準備の時間短縮になります。単元終了後に、ペグだけが残されているということがないようにしましょう。



A4 鉄棒の下は、子どもたちがよく使用するほど、くぼんで水たまりができやすい場所です。定期的に土を入れ直して固めるようにしましょう。



## Q 校庭の管理における留意点を教えてください。

A5 遊具や補助具、ゴールなどの固定施設は、倒れないように杭を打ち固定します。大型のサッカーゴールは、杭を4本以上使って留めます。定期的に、目視だけでなく揺さぶるなどして安全確認をしましょう。

サッカーゴールやバスケットボールゴールの支柱部分のカバーの劣化にも注意しましょう。



A6 砂場のシートの押さえは、砂袋が望ましいです。古いタイヤなどの使用が時々見られますが、水がたまり衛生的ではありません。



A7 ゴール、鉄棒、花壇、投擲板、指揮台、その他の遊具施設等は、衝突事故の可能性を考慮して管理します。カバーを付ける、面取り処理をする、植栽などで立ち入らせない、などの環境整備をしましょう。

A8 遊具施設のペンキのはがれや錆びによる劣化は思わぬ事故を招きます。目視だけでなく、触れたり、たたいて音を聴いたり、揺さぶったりして安全を確かめます。

遊具施設については、環境整備だけでなく、衣服が引っかかって吊られる、鬼ごっこで衝突する、挟まって抜けなくなるなど、起こり得る事故の可能性を考慮して、遊び方の事前指導をしていきましょう。